

名瀬測候所長の横光雅種（よこみつまたね）です。令和4年4月に着任し1年が経過しました。



名瀬測候所は、明治29年に「大島測候所」として設置されて以降、観測や予報などの気象業務を続けています。特に観測は130年近くに亘って絶え間なく継続しており、奄美における気象の経年変化を知ることができるだけでなく、地球温暖化の監視を行う地点（全国で41地点）の1つとして指定されており、長期的な気候変動の監視にも役立てられています。また、ラジオゾンデや気象レーダー、ウィンドプロファイラ、マイクロ波放射計など、多様な観測機器を用いて上空の大気の流れを観測し、台風や大雨の予測に欠かせない貴重なデータを収集しています。令和5年度には奄美大島の本茶峠に設置している気象レーダーの二重偏波化を計画しています。これに伴い、より正確な雨量、積乱雲の発達過程が把握できるようになり、局地的な大雨の監視能力の強化が期待できます。

令和4年度は、幸いなことに記録的な大雨や台風の直撃がなく重大な気象災害は発生していませんが「災害は忘れたことにやってくる」と言います。近年、気象災害が激甚化・集中化し、奄美大島でも平成22年10月20日に日降水量622ミリという梅雨期間の総降水量に匹敵する大雨が降り、甚大な被害となりました。また、気象災害だけでなく、前回の地震から70年以上が経過し、次の地震発生の切迫性が高まっている南海トラフ地震では、奄美地方の沿岸でも大きな津波が想定されています。自分や大切な家族・友人の命を自然災害から守るには、一人一人が自然災害と向き合い、日頃から、ハザードマップなどで自分の周りに潜む自然災害のリスクを知っておくことが重要です。

名瀬測候所は、自然現象による被害を防止・軽減し、奄美地方の皆さまの安心・安全を確保するため、引き続き、県、市町村、防災関係機関や報道機関と連携し、職員一丸となって地域に根差したきめ細やかな取り組みを進めてまいります。

今後とも名瀬測候所をよろしくお願いいたします。

令和5年4月
名瀬測候所長
横光 雅種